

8 参加生徒感想文

今回の特別講座に参加した生徒の皆さんから、電子メールで受講感想文を送っていただきましたので、以下に紹介します。なお、掲載に当たって、生徒の原文を尊重することを基本としつつ、文意を損ねない範囲で若干の字句整理などを行っております。

Aさん

今回の講義とグループトークを通して、難民問題と食品ロス問題の深刻さを改めて実感した。難民は戦争や差別などによって安全な暮らしを奪われた人々であり、私たちと同じ生活を求めているにもかかわらず、受け入れが難しい現状がある。一方、世界ではまだ多くの人が飢えているのに、私たちの国では大量の食品が無駄に捨てられていることに強い矛盾を感じた。

グループで意見を共有する中で、「自分にできることは何か」を考えるきっかけになった。たとえば、食べ残しをしない、必要な分だけ買うといった小さな行動も、問題解決の第一歩になると気づいた。今後もこれらの社会問題に関心を持ち、自分ごととして行動していきたい。

Bさん

私は今回の特別講座で、SDGs 達成のためには、これからの未来を過ごしていく私たちがSDGsについて知り、意識して生活していく必要があると思いました。

私がこの特別講座で特に印象に残っているのは、日本で暮らしている難民の方の授業です。公民の授業などで、世界中に難民の方がいて困っているということは知っていましたが、この難民問題が日本にも深く関わる問題なのだと改めて知ることができ、私たちも知っておかないといけないことだと再認識することができました。

日本で過ごしている難民の方々には、不安定な生活や立場などの日本での問題に加えて、母国の状況により簡単に帰国できないといった問題も相まって、日本での暮らしはかなり大変で困難を抱えていると知ることができ、先生がおっしゃっていた、「難民とは困難を乗り越えてきた民ということ」という表現がとても印象に残りました。

難民の方にも暮らしやすいような、多文化が集まって共に助け合っていける社会をつくるために、私たち一人一人がこの難民問題を認識しながら生活していくべきだと思います。

他にお話しいただいた、紛争や戦争のお話、食品ロスのお話にもこれは言えると思います。私たちがこれらの問題を認識して、解決に向けてほんの少しでも動くことで、小さな努力が集まり、大きな解決へのパワーにつながるのではないかと思います。

今回伺ったこれらのお話を、今後の生活に活かしていきたいと思います。

Cさん

私はこの「高校生夏休み国際理解教育特別講座」で人生で一度も考えてこなかった、難民や食品ロスの新しい利用法について考えるきっかけをもらったので、すごく良い経験を得られたと感じています。

食品ロスは普段から、テレビや学校でも取り上げられますから、残したらダメなどと考えたり、どんな問題があるのかなど、対策や問題を考えることはしてきましたが、今回、食材ロスの利用法を知れたので、良かったです。

特に、私は教員になりたいと思っているので、給食の残りが問題として、身近にあります。講座の一つのように、会社と連携して、肥料にしたりするのはすごくいい案だなと感じました。世界には食べれない人もいますので、児童に無理に食べさせることはしません、残りを減らす方法を考えていきたいです。

難民はグループ討論で進行しましたが、初対面の6人をまとめるのは難しかったです。

難民の申請問題は家についてから、親とも話しました。なんで申請通らないのかななどと、結論が、日本は島国でそこにくるのに、飛行機が必要でその分のお金が必要、その分のお金があるから、生活に困ってないよね？となるため、申請が通らないのではないかと考えました。今まで難民の話をしてこなかったのも、すごくいいきっかけをつくってくれて感謝しています。愛知で教員になると、難民の子供も少なからず見ると思います。そんな時、いち早く動けるように、討論や講座の知識を使ったり、自分で英語の勉強を、率先してやっていきたいなと思いました。

自分が今後身近になっていく問題なので、今日の意見や知識を使ってより、難民申請が通った人を増やしたり、難民を助けたりしていきたいです。

Dさん

私は今回この「高校生夏休み国際理解教育特別講座」を受講し、深い学びがありました。講師方のお話はとても分かりやすく、興味深いものばかりでした。実際にその問題に携わっていらっしゃる講師の方々だからこその経験談や言葉、現状分析がとても心に響きました。さまざまな知識を得ることができて、国際問題についての考え方や視野が広がったように感じます。ニュースや記事をみる時にこの講座をよく思い出しています。質疑応答の際も丁寧に優しく回答をしてくださって、とても嬉しかったです。

食料問題については企業や自治体の食品ロスの出ない持続可能な社会を目指す取り組みが紹介されていて、食品ロスの原因と何が解決の糸口になるのかを勉強できました。また企業がこのような取り組みをしていることを知らなかったのも、もっと知りたいと思いました。

グループ討論の際には初対面の人ばかりで、緊張をしましたが、それぞれがしっかりと考えて、お互いを尊重しながら会議を進められたので、とても楽しく課題に取り組みました。皆で意見を出し合うからこそ、自分になかった意見も知ることができて、学びが深まりました。

グループ発表ではどのグループも発表のレベルが高くて、刺激を受けました。同じ課題でも切り込む視点が違い、とても興味深かったです。発表に伝え方や見せ方が上手な方が多くてとても参考になりました。会場の雰囲気も良くてとても充実感がありました。講師の方々にグループ発表への感想を言うだけでとても嬉しかったです。

今回はとても貴重な機会をありがとうございました。

Eさん

私が今回、この講座に参加したきっかけは難民問題に関心があり、難民の現状について詳しく知りたいと思ったからです。今回の授業を聞いて、日本で難民として認められるのはとても難しいことがよく分かりました。また、難民問題は日本だけでなく、世界全体で考えていかなければいけないと強く感じました。

ディスカッションでは食品ロスをテーマに話し合いました。討論をすることで自分では思いつかないような考え方やアイデアを聞くことができ、自分たちなりの解決策を見つけることができました。討論をしていく中で、もっと世界で起きている問題について勉強したいと思いました。

この講座で難民問題や食品ロスの問題について知ることができ、同年代の人たちとディスカッションすることができ、とても良い経験になりました。

今回学んだことをこれからのキャリアに活かしていこうと思います。

Fさん

今回の講座では、主に日本の難民問題と食品ロスについて学ぶことができました。

私は難民問題を深めたいと回答したので、グループ討論ではこの今日本で起こっている難民の問題について他校の生徒さんと深掘ることができました。大人でも難しい課題の一つの難民問題では、高校生にも分かりやすいように事前資料を配布してくれたおかげで基礎を学ぶことができ、実際の講義ではその基礎を踏まえて、また新たな知識とそして今何が課題なのかをしっかりと学ぶことができました。講師の先生方も優しく「なんで分からないの？」という圧がないので、リラックスして講義を受けることができる落ち着いた良い雰囲気でした。

また、グループ討論では、「初めまして」の他校の生徒さんと関わり、学年問わず一緒に話し合っただけで私たちに解決方法を見出すという、日常生活ではできない関わりと機会が今回の討論の質を向上してくれました。相手の意見や尊重しお互いに深め合えるこの環境がとても有意義で、今ある課題にしっかりと向き合える良い機会でした。

Gさん

今回の講座では、多様な視点で物事を見ることの大切さを改めて実感しました。

私は食品ロスについてグループ討論を行い、そのことについて話して下さった先生のお話が印象に残っています。自分ごとですが、私は嫌いな食べ物がひとつもなく、ご飯を残す人を見るととても腹が立ちます。現在、日本にいる私たちは戦争もなく平和な環境で暮らしていて、きっと「食べる」ということの有難みが理解できる人が少ないのではないかと思います。今の環境を当たり前と思わずに日常に感謝する気持ちをこれからも意識し、さらに未来にまで伝えていくことが食品ロスの解決につながると考えました。

グループ討論や全体発表会でも興味深い意見をたくさん聞くことができ、とても貴重な経験となりました。社会問題はどうしても他人ごととして捉えがちですが、常に自分とも周りの人たちとも隣り合わせだということを忘れずに過ごしたいです。今回学んだことを胸に刻み、これからの人生に活かしていこうと思います。

Hさん

今回の講義や話し合いを経て、自分にはまだまだ知識が足りないと感じました。話を聞く中で知らない単語や取り組みが多くあり、焦る場面もありましたが、今回学んだことを忘れずに今後も食品ロスについて自分なりに考えていこうと思いました。

また、話し合いの際、他校の方の取り組みを聞き、実際に私も部活でやってみたいと強く思ったので、一度顧問の先生に相談して実現させたいなと思いました。明るい未来を切り開くため、私たち若者が一丸となり社会問題を解決していければなと思いました。

Iさん

「高校生夏休み国際理解教育特別講座」を受けて一番印象に残っていることは、講師の方から授業で学んだことと元から持っている知識を合わせて問題について考え、それを同じグループの人と共有し合い発表できたことです。問題自体はとても難しく、高校生だけでは完璧な結論は出せないような問題もあります。しかし、その問題にしっかり向き合って考えることが大切だと思いました。

また、グループで意見を発表するときは最初はすごく緊張していてあまり発言ができませんでしたが、勇気を出して意見を発表してみると、グループの皆がとても優しく意見を受け入れてくれて勇気を出して意見を言えて良かったとも思いました。

今回学んだことを活かして、普段難民のニュースがやっていたら自分たちに今できることは何かを考えてみたり、ご飯を食べるときに食品ロスが出ないように自分の食べられる分だけ作ったりなど、普段の生活の意識から変えられるようにしたいです。本当にこの講座を受けて良かったです。また来年も機会があればぜひ受けたいです。

Jさん

この講座を通して、世界の問題について考えることが前より身近になったと感じた。紛争や貧困、食品ロスの話は難しそうで、積極的に学ぶことを少し避けていたけれども、話を聞いて考えていくうちに、少しずつ理解できる部分が増えていった。特に食品ロスについての討論では、初めて会った同年代の高校生と意見を出し合いながら原因や対策を考えた。最初は緊張していたけれど、いろいろな意見を聞くことで、自分一人では思いつかなかった考え方に気づくことができた。

この討論を通して、結論を一つにまとめるよりも、互いの考えを出し合って問題をさまざまな角度から見るのが大事だと感じた。今回の体験をきっかけに、これからも世界のことを自分なりに調べ、考え続けたいと思った。

Kさん

今回はとても貴重な授業をありがとうございました。参加した授業は、とても考えさせられる内容でした。

食品ロスの授業では、食べられるのに捨てられる食品がある一方で、十分な食料を得られず苦しむ人々がいるという現実を深く知ることができました。

難民についての授業では、普段の生活では意識しきれていない世界の現実を深く考えることができました。難民というと「遠い国の出来事、考えにくい出来事」という印象

を持っていましたが、実際には戦争や迫害、貧困などによって生活が難しく、毎日一日一日を一生懸命生きている人たちが多くいることを知り、もっと考えるきっかけになりました。また、難民支援は私たち一人一人の意識や行動にもつながっていると思い、もっと私たちにできることをしていきたいと感じました。

今回の講座をきっかけに、少しでも自分にできる支援や関心を持ち続ける姿勢を大切にして生きていきたいと思いました。

Lさん

「2025 年度高校生夏休み国際理解教育特別講座」を開催していただきありがとうございました。この講座を受講した理由は、今世界が抱えている課題について理解し、同世代の人と考えを深めたいと思ったからです。

特に印象深い、授業①「日本で暮らす難民について考えよう」では、自分がいかに難民問題について無知だったかを痛感しました。難民問題の認知度の低さも課題の一つであり、難民保護の制度・法の整備、難民の出身国の文化や伝統を理解することが大切だと学びました。

グループ討論や発表では自分では思いつかなかったアイデアや意見を知ることができ、良い刺激を受けることができました。

広い世界と比べれば、私の行動はとても小さいです。しかし、その小さな一歩が周りの人の協力により大きな変動力となり、地球規模の問題を解決することができると信じています。この講座を通して学んだ世界の現状、日本の課題の解決へ向けて、この社会を担う者としての責任を果たすために、そして次世代に持続可能な社会をつなげるために小さな一歩を踏み出したいと思います。

Mさん

今回の学習を通して、難民問題についての理解が深まった。特に、人口増加や紛争、宗教の対立などさまざまな要因が重なって難民が生まれるということに驚いた。また、難民が置かれている厳しい状況や、受け入れ国が抱える課題についても考えさせられた。言語の違いや生活習慣のギャップなど、受け入れ側にも大きな負担がかかるが、それでも命の危機にある人々を助けることは人道的にとっても大切だと思った。

日本でも今後、他人ごととはせず、受け入れ体制をどう整えるかが課題になると思う。一人一人が国際社会の一員として、正しい知識を持ち、理解を深めることが必要だと感じた。

Nさん

愛・知・みらいフォーラムの特別講座に参加し、実際に社会課題に取り組んでおられる方々の講義に加えて、他の参加者とのグループディスカッションを通して、多角的に学ぶことができました。

講義では、現場で活動する方々の生の声を伺うことで、これまで漠然としていた社会問題というものが個々の具体例へ落とし込むことができました。

また、ディスカッションを通じて、同じように社会問題に強い関心を持つ同世代の仲

間たちと意見を交わすことができたことは、大きな収穫でした。

普段の学校生活では環境問題に関心を持つ人が少なく、自分の考えを共有する機会も限られていました。そのため、今回の交流では、自分が抱えていた思いや現在の社会への疑問を率直に語り合えたことに大きな喜びを感じました。同世代のリアルな声に触れることで、自分自身の考えをより深めるとともに、社会課題への向き合い方の指針となりうる大切な機会となりました。

〇さん

これまでニュースで「難民」という言葉はよく耳にしていましたが、難民認定までの具体的な過程や、自分にできる支援については深く考えたことがありませんでした。

しかし、今回講師の先生のお話を伺い、グループで話し合う機会を得たことで、難民の方々の現状や認定の実態をより詳しく理解することができました。

特にグループでの交流の中で、難民を知ること、交流を深めることが大事だと気づくことができ、とても良かったです。難民は遠い存在ではなく、接点を持つことで理解と共感が生まれることを実感しました。他グループの発表では、新たな課題や改善策を聞くことができ、私の視野もより広がりました。

食品ロスの講義では、私たちの日常生活が大きく影響している問題だと理解しました。食品ロスの出ない持続可能な社会をつくるためには、単に「残さず食べる」だけでなく、家庭でできる多くの取り組みがあることをあらためて考える機会になりました。

これから自分でできることを実践していきたいと思います。

Pさん

今回、「高校生夏休み国際理解教育特別講座」に参加して、難民や食品ロスについての問題に対する視野が広がりました。

事前にいただいた難民制度に関する資料を読んで、私は日本の難民制度の現実に大きなショックを受けました。難民という言葉はニュースなどで聞いたことがあっても、実際にどんな経験をしているのかはあまり知りませんでした。でも、この資料を通して、難民の人がどれほど長い間、苦しい思いをしてきたのかが伝わってきました。

この資料の中で印象に残った部分は、「難民申請をしたい」と言っただけで、すぐに別室に連れて行かれて入管に收容されてしまったことです。ホテルに泊まれるわけでもなく、家族と一緒に生活することもできず、体調が悪くてもきちんとした治療を受けられないという話を読んで、人権を大事にしている国のやり方とはとても思えないと少し悲しくなりました。

この現状から、難民制度というのは、人を助けるためにあるはずなのに、実際には人を苦しめている場合があるということを知りました。そして、見た目や国籍だけでその人を決めつけてしまうような社会ではいけないと思いました。この考えを実際に講座内で班のメンバーと共有し合うことができて、自分とは違った考えも知ることができて、とても勉強になりました。講話などを聴いた上で、私たち一人一人が、もっとこうした現実に目を向けて、人としてどうあるべきかを考えることが大切だと思いました。

これからはニュースなどで難民という言葉を見たときも、その裏にある人々の思いを

想像できるような人になりたいです。

Qさん

講座に参加して特に印象に残ったのは日本で暮らす難民についてです。事前課題で調べた時もすごく驚きましたが、講座を受けてより深く考えさせられました。例えば通訳をつけるときに母国の人だと政府などにつながっていて迫害される危険があることや、国籍を公表するだけで危険な国もあることを知り、難民が置かれている状況の深刻さを感じました。それなのに日本では多くの難民が保護されずに苦しんでいる現状があって、とても大きな問題だと思いました。難民問題は遠い話ではなく私たちの身近にある問題だと知って、日本としてもっと受け入れる姿勢が必要だと思いました。

他にも貴重な話を聞くことができ、国際問題についての興味を持ちました。ありがとうございました。

Rさん

今回の講座は、学校から配られたプリントをみて面白そうという軽い気持ちで参加しました。最初は難民問題やフードロス問題などよく聞く問題だとは思っていましたが、それに特別関心があったりもしませんでした。「少しでもそれについて知れたら」ぐらいでしたが、講師の先生たちの話を聞くにつれて、実は身近に問題があり、それを解決するための団体や行動をしている人たちがいると知ることができたので、今まで遠くにあった問題が自分の近くにあるものと理解しました。

それにその問題は自分たちの生活だけではなく、未来の子孫たちの時代のためにも今、目を背けてしまうと取り返しのつかないようなことになってしまうということが分かりました。

そして、グループディスカッションでは、解決策やその問題にどうやって向き合っていくかやムーンショットを話し合い、今まで自分が体験してきた経験や意見から自分にはない発想や意見が出てきたので、問題と言ってもポジティブに考えることができた。

今回の学びは、難民問題もフードロス問題も他人ごとではなく自分たちで考えなくてはいけないということと、問題と言っても暗く考えすぎず、しっかりと一つずつ物の本質を見て自分なりの意見を持って行動するのが大切だということです。

Sさん

有意義な話をたくさん聞くことができ、いい経験になったと思います。

私が難民について興味を持ったきっかけはガザ地区での紛争のニュースだったので、詳しく知ることができて良かったです。

難民の話では、イスラムの方が増えモスクがたくさん設立されていることが印象的でした。具体的な例として挙げられた津島市は同じ県の中ですが、なかなか実感が湧かないなと思いました。

食品ロスについては、序盤の話にあった日本のSDGsの達成度で「飢餓をゼロに」が最低ランクとなっていることに驚きました。栄養の偏りなども評価されることを新たに知りました。

私はグループ討論で皆と意見の交換をし合ったことが一番印象に残っています。それぞれ何に焦点を当てて調べたかが異なっていたため聞いていて楽しかったです。発表では、どのグループもしっかりまとめられていて分かりやすく、新たな気づきもありました。

Tさん

今回の特別講座に参加したことで、私はいくつか成長できたことがあったと思う。

まず、社会問題に興味がある高校生にたくさん出会えたことで、自分の中での社会問題への興味や関心、士気を高めることができたことだ。今まで自分は政治や社会について「もっと知らないとなあ」と思いつつ知ろうとしてこなかった。だが、さまざまなことに詳しい周りの人たちやたくさん質問を投げている人たちを見て、自分はまだまだ本気さが足りない、興味があると堂々と言えるぐらい詳しくなりたいと感じることができた。

また、面白くて盛り上がる発表や堂々と意見を伝えられる周りを見て、自分もあのようにならなうに話せたら楽しいのだろうなと感じた。それに、大人になるにつれてプレゼンや議論をする機回は増えるだろうから、人の興味を惹きつけられるような、そんな発表をできるように練習したいと思った。

最後に、グループ討論で「戦争も難民の存在も、なくなることはない」という意見が出たが、その意見を聞いた上でも私は世界の平和を諦められないので、誰もが幸せな世界を目指し続けたいと思った。

Uさん

今回の講座に参加してみて、難民について深く理解することができた。これまで難民について、ニュースや授業で聞いたことはあったが、なぜ難民が生まれるのか、また難民が生まれることによる他国への影響は知らなかった。

今回、世界で起きている複雑な事情が絡む問題や、それによって生まれる難民、それに対するそれぞれの国の姿勢、など詳しいことを講師の方から聞くことができ、理解を深めることができた。

特に印象的だったのは、日本の難民に対する姿勢で、その中でも愛知県で活動している難民支援のNPO団体があることだった。難民という言葉を知ると、遠い存在のように感じるが、実際には自分が住む愛知県にも難民がいて、その難民を支援する人たちが身近にいることを知って、難民問題について他人ごとにすることはできないなと思った。

今回の学びをきっかけに、自分にもできることを考えたい。例えば、難民についての情報を自ら学んだり、支援活動や募金に参加したりしたい。今回の経験で得た知識や気づきをその場限りのものにするのではなく、これからも関心を持ち続け、行動につなげていきたい。

Vさん

「高校生夏休み国際理解教育特別講座」に参加させていただきありがとうございました。

難民や食品ロスという言葉は日常のどこかしらで耳にすることはありますが、どこか漠然としたイメージしか持ち合わせていませんでした。そんな時、学校の先生にこの講座を受けてみないかと声をかけていただき、そのイメージが大きく変わりました。

特に難民問題については詳しく調べて講座に臨んだものの、自分が何も分かっていなかったことを痛感し、それと同時にとても惹きつけられました。世界では今何が起きているのか、難民と移民はどう違うのか、それを理解している人なんて、多いとは言えないでしょう。だからこそ、身につけた知識を広げることが自分の務めだと思います。

また、グループ討論では、初対面の仲間とブレインストーミングをしました。自分と異なる環境にいる人の話を聞くのは実に興味深く、新しい発見の連続でした。世界を少しでも良くしたい、何か変えたいと願う高校生がこんなにもいれば、未来は明るいんじゃないかと感じました。

この貴重な経験を活かして、自分にできることを着実に一步ずつ進めていきたいです。

Wさん

今回の特別講座では「食品ロス」と「難民問題」という二つの大きな課題について学びました。

特に印象に残ったのは、日本では食べられるはずの食料が大量に廃棄されている一方で、世界には十分な食事をとれず苦しんでいる人が大勢いるという現実です。食品ロスの削減は環境問題の観点からも重要ですが、それ以上に「必要としている人に食料が届かない」という不公平さに強く心を動かされました。

難民については、これまでニュースで「大変そうだ」という漠然とした印象しか持っていませんでしたが、講義を通して具体的にどの国からの人が多いのか、日本の受け入れの現状はどうなのかを知ることができました。

グループ討論では、難民受け入れのメリットとして労働力や文化交流があり、デメリットとして治安や生活支援の負担があるという意見が出ました。私は単純に「受け入れるかどうか」を議論するのではなく、教育や言語の支援体制をどう整えるかが重要だと感じました。他のグループの発表も聞くことで、自分たちの考えをより深めることができました。

食品ロスと難民という課題について考えることで、社会問題を自分ごととしてとらえる姿勢を持ちたいと思いました。

Xさん

今回はこの講座に参加させていただき、ありがとうございました。とても有意義で貴重な体験となりました。

私が今回の講座で印象に残っていることが2つあります。

1つ目は、中西先生のお話です。元々、中東の紛争に関わる国々の関係性を明確に把握しているわけではなかったのですが、改めて中東の国々の対立・協力関係を整理したことで各国の意向が理解できました。講義を聞き、個人的には、原爆の悲劇を繰り返すことのないように、日本は核攻撃に対して積極的に声をあげて批判するべきだと思います。今後も中東の紛争に関するニュースに敏感になっておきたいと思います。

2 つ目は、羽田野先生の講義の中にあった、「国名を公表しない理由」と「通訳のリスク」についてです。どのような点が問題なのかと疑問に思っていたのですが、その理由に納得したのと同時に新たな視点が得られました。政府が相手になる場合もあるからこそ慎重に行動しなければならないと気づかされました。

他校の高校生と交流する機会は初めてでしたが、討論を通して初対面の人にも自分の意見を積極的に伝える力や、複数の意見や考え方をまとめる力がついたように感じます。これからも国際理解の姿勢を大切にしていきたいです。

